

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	医療栄養学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18011	2	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	国際関係論 (Theory of International Relations)				
担当教員名	日比野 守男				
授業の概要及び到達目標					
<p>文系学部・学科の国際関係論と違い、本講義では将来の医療職に関係の深い、医療をはじめ介護や年金など社会保障制度全般について、国際的な視野に立つ幅広い基礎的な知識を身につけることに目的を絞る。この狙いに沿って、内外の政治、経済情勢などを踏まえながら、先進国共通の社会保障制度の課題、欧米とわが国との比較、わが国の社会保障制度の現状などについて、最近の具体的な報道事例などを織り交ぜながら概説し、今後のわが国の社会保障制度のあり方を探る。また、エイズ、ハンセン病などの医療をめぐる差別問題も各国との比較で取り上げる。</p>					
準備学習等					
<p>① 社会保障制度はなぜ生まれたか          ② 海外と比べた日本の日本の医療保険の優れた点、改善すべき点          ③ 日本でなぜ介護保険制度ができたか          ④ エイズ、ハンセン病問題に絡む差別・偏見の歴史          ⑤ 日本だけではなく、なぜ海外でも年金制度が大きな政治問題になるのか          ⑥ 世界で最も高齢化が進んだ日本はそれをどう乗り切るか</p> <p>以上の点についてあらかじめ情報を収集し、論点などを把握し、さらに自分の意見をまとめて講義に臨むのが望ましい。インターネット情報は必ずしも信用できるものばかりではないが、概要はつかむことができる。講義終了後、改めて自分の事前の学習成果を見直す。予習・復習とも各1時間が目安。</p>					
成績評価の方法	授業の参加及び学習状況(40%をメド)、小レポートと最終試験(60%をメド)を総合的に評価する				
テキスト	授業の進行に合わせて適宜ハンドアウトを配布				
参考図書	講義中に適宜紹介するが、社会保障関係の書籍は難易度に大きな差があるうえ、内容も高邁な理念の解説書からハウツーものまで幅がある。受講したあと、大きな書店で自分の理解力、問題意識に合うものを選ぶのが望ましい。				

備 考	<p>将来、医療関係職に就くものとして社会保障制度の基本的知識を身につけるのが狙い。</p> <p>質問は講義中、講義外を問わず随時可。</p> <p>講義中のパソコンやスマートフォン等の使用は厳禁。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図を確認する。</p> <p>試験は知識ではなく論理的記述能力の判定に重点を置く記述式なので、試験中配布資料の持ち込み可。病気などやむを得ない事情で試験を受けなかった場合には追試を実施するかレポート提出を求める。試験の成績が極端に悪い場合には再受講が必要と判断し、再試験は行わない。小レポート、最終試験の評価について質問があれば希望者に個別に説明する。</p>
授 業 計 画	
<p>第1回：社会保障制度とは何か（なぜ必要か。なぜ国政選挙のたびに与野党の大きな争点になるのか。国の一般歳出の半分以上を占める社会保障関係費。海外の社会保障制度の動きなど）</p> <p>第2回：医療保険制度（医療費が増える背景。先進国の中でGDP比が少ない日本の医療費。制度疲労を起こしてきた国民皆保険制度。先進国中最も遅れた米国の医療保険制度など）</p> <p>第3回：医療保険制度（第2回の続き。特に先進国中最も遅れた米国の医療保険制度など）。介護保険制度（世界で2番目に導入した日本の背景。介護の社会化とは。社会的入院。医療保険制度との違い。介護職員の待遇問題など。わが国の動向に注目する韓国。日独韓の介護保険制度の比較など）</p> <p>第4回：介護保険制度（第3回の続き）</p> <p>第5回：疾病と社会（エイズ、ハンセン病。世界中で起きた偏見と差別。学ぶべき教訓、医療従事者の責務など）</p> <p>第6回：年金保険制度（年金は遠い将来のことか。世代間扶養と世代間対立。国によって異なる財源の調達方法。各国の年金制度の比較。高齢化に伴い、どの国も直面している負担増・給付減と支給開始年齢の引き上げなど）</p> <p>第7回：少子高齢化と財源（世界一の早さで進むわが国の少子高齢化。少子化で何が困るか。少子化の背景は。出生率を上げるには。海外に比べ子供・家族関係予算の少ない日本。海外の取り組みなど）</p> <p>第8回：まとめ</p>	